



Vol.8  
通巻 74 号



## 「つながるカフェ」に参加

ー地域活動支援センターを伝えたいー

2016 年 11 月 26 日（土）、那珂市社会福祉協議会（以下「那珂市社協」）の主催する「つながるカフェ」に、地域活動支援センター（以下「地活」）I 型を展開する「風（F00）」のユーザー4 名とスタッフ 2 名が協力参加しました。

今年度、那珂市社協は、市内に居住する障害者を対象に、地域生活に関する調査を行いました。調査結果からは衝撃的な事実が判明。自宅に引きこもっている精神障害者が増えていたのです。事態の重さに那珂市社協は、例年行っている障害者交流事業を精神障害者に特化して、「市内の精神障害者が自由に集まれる場の設営」を試みる事業計画を立てました。そこに、「風（F00）」へ事業実施への協力依頼があり、場づくりの検討段階から参加しました。

「風（F00）」で実施している「社会資源調査団（以下「社資団」）」では、以前よりユーザー数名が市町村のデイケアに出向いて、「地活」に関する情報提供を行ってきました。新しい仲間が増えないことを憂いていたユーザーが「地域にいる精神障害者でも、『地活』を知らないために、家に引きこもっているんじゃないか」という疑問から始まった活動です。まさに那珂市社協の調査結果が「社資団」の活動根拠を裏付けてくれました。

障害者福祉は、自立支援法施行から「就労を中心」に展開し、10 年が経過しました。茨城県内の就労系事業所は 300 ヶ所以上。その一方で、通所先の仕事や人間関係等の問題で事業所を転々する人たちの多くが、「地活」を知らずに行き場がなくなっていたのです。

茨城県内に精神障害者を対象とする小規模共同作業所ができ、地域の中の居場所をつくりだしたのは 30 年前です。作業所は、現在の「地活Ⅲ型」の前身です。この作業所ができるまでは、多くの精神障害者は自宅に居るか、精神病院に入院しているかの状態に置かれていました。今の状況は、その頃に戻ってしまったような、残念ながら、地域福祉が後退しはじめているように感じてなりません。その危機感もあって、那珂市社協の事業に協力しました。

当日、何名集まるのか、ユーザーも主催者もハラハラ・ドキドキする中で幕が開きました。

「『風（F00）』は居場所」「居場所は大切」「地活」を伝えたいと手を挙げた「社資団」参加ユーザー4 名の他に、那珂市内からは 10 名の精神障害者が集まりました。

会場内は、用意されたカフェオレやチョコレートなどの甘い香りに包まれ、「つながるカフェ」の 2 時間はアツという間に過ぎていきました。

（事務局長 高島 眞澄）

表.1 「つながるカフェ」打合せ状況

月	日	曜	内容	参加人数		スタッフ
				風	光	
9	29	木	・那珂市社協より、11/26(土)に協力参加の依頼が来る	4	0	高島・松田
10	6	木	・那珂市社協との交流事業打合せ ・「地活」調査について報告	5	0	高島
	20	木	・「つながるカフェ」への協力ユーザーの確認 「地活」についてどう伝えるかを検討	2	0	高島
11	10	木	・「つながるカフェ」についての参加希望者確認 ・就労事業所と地活との関係の図を確認	3	0	高島・松田
	17	木	・「つながるカフェ」打ち合わせ	1	1	高島・松田
	24	木	・「つながるカフェ」打ち合わせ ・「地活」利用の自分にとっての良いことを考える	4	0	高島・松田
	26	土	・「つながるカフェ」当日	3	1	川崎・高島
12	8	木	・「つながるカフェ」に参加して 振り返り	4	0	高島・松田
計				26	2	-